

An illustration featuring two children in a lush, natural environment. On the left, a girl with brown hair in a bun, wearing a yellow shirt and blue shorts, is seen from the back, looking towards the right. On the right, a boy with black hair, wearing a blue and white striped shirt and brown pants, is kneeling and looking at a large, detailed illustration of a fish jumping out of the water. The background is a green, hilly landscape. Various plants are scattered around: white cherry blossoms on a branch in the top left, pink lilies with green leaves in the top right, and several large, round yellow lemons on a branch in the bottom left. In the bottom right, there are several red spider lilies. The title text is centered in the upper half of the image.

**高知市
土佐山地域
合併20周年
記念誌**

令和7年6月 高知市

高知市土佐山地域合併20周年記念式典次第

令和7年6月28日(土) 10:00～ 土佐山学舎体育館

- 1 開式の辞
- 2 式辞
- 3 来賓紹介
- 4 来賓祝辞
- 5 20年の振り返り
- 6 若者メッセージ
- 7 土佐山学舎パフォーマンス
- 8 土佐山音頭
- 9 閉式の辞



INDEX

目次

p.01-02

合併20周年に寄せて

p.03

土佐山地域の概要

p.04

土佐山地域の歴史

p.05

合併の経緯

p.06-11

合併後の主な出来事

p.12

土佐山学舎のご紹介

p.13

土佐山地域の伝統文化

p.14

土佐山地域の行事

p.15

土佐山地域の風景

p.16

土佐山地域のいろいろ



MESSAGE

合併20周年に寄せて



この記念すべき節目を迎えるにあたり、本日まで高知市と土佐山地域を支え、ともに歩んでくださったすべての皆様に心から感謝を申し上げます。

20年前の平成17年1月1日、土佐山村と高知市が合併しました。この日から、豊かな自然や歴史、そして何より温かい人々に恵まれた土佐山地域が高知市と一つになり、新たな歴史を刻み始めたのです。

この20年間、地域の活性化と暮らしやすい環境づくりのため、農業の振興やインフラの整備、災害への備えなど、様々な施策を進め、地域の皆様とともに発展の道を歩んでまいりました。これも、地域の皆様の深いご理解と、地域づくりへの積極的なお力添えのおかげです。

夢産地とさやま開発公社による有機農業へのいち早い取組、土佐山アカデミーや土佐山学舎に代表される多様でオリジナリティあふれる学びの場、そして、循環型社会を目指す独自の地域づくりは、高知市の未来を切り拓く先行事例として注目を集めてきました。

また、ゆずをはじめとする豊かな農産物や、美しい里山の風景は、高知市の魅力として広く発信され、多くの人々に愛されています。

この20年の歩みを振り返ると、多くの喜びと共に、時には課題にも直面しました。しかし、私たちはその都度、対話を重ね、知恵を出し合い、一つひとつの困難を乗り越えてきました。この経験こそが、未来に向けてさらなる発展を遂げるための大きな力となります。

これからも、高知市は、土佐山地域の素晴らしい魅力を最大限に活かし、さらに住みやすく、そして訪れる人々にも感動を与える地域となるよう、全力で取り組んでまいります。

高知市長 桑名 龍吾

MESSAGE

合併20周年に寄せて



平成17年に実現しました土佐山村と高知市の合併から、本年、記念すべき20年目を迎えましたことを、心よりお祝い申し上げます。この日まで、土佐山地域と高知市が文字通り一つとなり、手を取り合い、ともに発展し続けてこられましたのも、ひとえに地域の皆様方のご尽力の賜物であり、深く感謝いたしますとともに、心から敬意を表します。

この20年間、地域の皆様におかれましては、平成23年の「土佐山百年構想」を契機として、土佐山学舎での「社会学一体・小中一貫教育」による学びと人づくりの取組や、夢産地とさやま開発公社を中心とした「まるごと有機プロジェクト」による農業の更なる振興、さらには土佐山アカデミーを拠点とした地域内外の交流・定住人口の拡大など、土佐山を一層豊かで暮らしやすく、活気あふれる地域とするべく様々な取組を進められ、今日の土佐山地域を築き上げてこられました。

高知市議会も、地域の皆様方のご理解とご協力を賜りながら、集落の維持、産業の振興、交通の確保、災害対策など、土佐山地域における様々な行政課題の解決だけでなく、更なる地域の活性化に向けて、高知市への提案や議論を重ね、地域の皆様一人ひとりが誇りを持てるまちづくりに邁進してまいりました。

今日の土佐山地域の姿は、地域の皆様をはじめ、様々な関係者の皆様による長年の努力によって実を結んだ、かけがえのない財産です。

これからも、次なる未来に向けて、土佐山地域が誇るこの美しく豊かな自然、文化、歴史、産業、そして人と人との絆を大切にしながら、地域の皆様をはじめ、行政、市議会、そして土佐山を応援して下さるすべての関係者の皆様とともに、一丸となって、土佐山地域の更なる発展と繁栄を目指し、力強く歩んでまいりましょう。

高知市議会議長 清水 おさむ

INTRODUCTION

土佐山地域の概要

土佐山地域は、高知市の北東部に位置し、市の水源である鏡川の源流にあります。面積は59.22平方キロメートル（高知市全体の約19%）で、地域全体の90.3%を森林が占める地域です。402世帯、839人（令和7年4月時点）が暮らしています。

北にそびえる高知市最高峰の工石山に見守られ、鏡川のせせらぎと野鳥の鳴き声が聞こえるこの緑豊かな渓谷には、先人達が築き上げてきた田畑が今も息づいており、美しい自然の中で営々と紡がれてきた暮らしの営みは、歴史となり文化となり、この地の息吹として現代へと受け継がれています。

高知市中心部から車で約30分とアクセスも良好であり、豊かな自然を求めて訪れる人も多く、交流人口は年々増えています。

人口は減少傾向にあり、昭和35年（1960年）には2,286人だったのが、令和7年（2025年）には839人とおよそ6割減少しました。高齢化も進んでおり、65歳以上の高齢者比率は昭和35年の9.4%から令和7年には43.0%に上昇しています。

地域には明治の自由民権運動の時代から続いた「夜学会」など、地域全体で社会教育に取り組む「社学一体」の風土が根付いています。

平成27年（2015年）には高知市初の小中一貫教育校が、平成28年（2016年）には義務教育学校がスタートし、自然豊かな環境で特色ある教育が行われています。学校周辺には子育て世帯向けの住宅も整備されました。

地域の特産物は「ゆず」や「四方竹」であり、特に「ゆず」は年間約800㌦が生産され、地域農業者の暮らしに欠かせない品目になっています。また、環境に優しい有機農業にも積極的で、直売所では安心・安全な野菜が販売されています。



HISTORY



土佐山地域の歴史

土佐山村は、天正時代の資料にもその名があるほど古くから存在する村です。土佐の中心部に近く、経済的な恩恵を受けながら、新しい情報を取り入れてきました。また、その地理的条件を活かし、争いを避け、先人の伝統や文化を守り続けてきました。

明治22年（1889年）に10の村が合併して「土佐山村」が発足しました。

明治時代には「桑尾桑」の生産が盛んとなり、製糸会社も設立され、生糸の生産が行われました。

その後、製糸会社の失敗や、小学校の統合問題など、苦難の時代もありましたが、その都度、地域が一丸となって振興に取り組みました。特に小学校の統合は昭和の時代まで続きました。過疎化による児童数の減少もあり、最終的に地域には、小学校と中学校がそれぞれ1校ずつ、土佐山小学校と土佐山中学校のみとなりました。

昭和33年（1958年）には農事研究会が結成され、農業を村の主幹産業とする積極的な取組が始まり、現在の土佐山地域の農業の基礎が築かれました。

昭和55年（1980年）頃から人口減少は緩やかになりましたが、高齢化が進み、地域の発展が見えにくくなってきました。そこで、昭和59年（1984年）から5年間、地域づくりの先進地である大分県大山町に多くの住民を派遣し、担い手の育成に力を入れました。

その後は、県道の改良により大型バスが乗り入れられるようになり、高知市中心部へのアクセスが改善され、地域活性化の大きな弾みとなりました。

平成元年（1989年）には村政100周年を迎え、「夢産地・土佐山」を掲げてさらなる発展を目指しました。

高知市との合併については、昭和30年代（1955年頃）にも一度議論されましたが、この時は実現しませんでした。その後も何度か合併の話が持ち上がり、最終的に平成17年（2005年）1月1日に、土佐山村は高知市と合併しました。

BACKGROUND

合併の経緯

土佐山村は、明治時代に発足して以来、合併を経験することなく独自の村づくりを進めていました。一方、高知市は、明治時代から8度にわたる周辺町村との合併を繰り返し、県都として発展を続けていました。

21世紀に入り「地方の時代」と言われる中で、地方分権が進み、住民に身近な市町村の役割がますます重要になりました。しかし、国も地方も財政的に厳しく、高齢化も急速に進む中で、これまで地方交付税に大きく頼ってきた市町村は、厳しい状況に直面するようになりました。

このような状況で、将来にわたって行政サービスを維持・向上させるためには、国からの税財源の移譲を求めるだけでなく、市町村自身が行政を効率化し、財政基盤を強化することが必要不可欠となりました。

そこで、様々な社会情勢の変化に対応し、住民が安心して暮らせる「まちづくり」を進めるための有効な手段として、土佐山村と高知市においても合併が検討されました。

豊かな自然や水源を持つ土佐山村と、県内の都市機能が集まる広域拠点である高知市が合併することで、「ものの豊かさ」と「心の豊かさ」を併せ持つ、多様な生活空間を創造することを目指し、合併が行われました。

合併以降、生活圏の一体化に合わせた住民サービスの提供やまちづくりを進めていくことで、住民生活の利便性の一層の向上につながりました。



MAJOR EVENTS

合併後の主な出来事



土佐山地域の主な出来事

▶▶▶ 平成17(2005)年 合併

● 平成18(2006)年度

● 市道過疎改良工事着手（西川、桑尾、中切）

● 平成19(2007)年度

● 消防団員招集用無線サイレン設置・運用開始

● 平成20(2008)年度

● 高知市土佐山柚子生産組合・旭食品株式会社・高知市の三者による
「ゆず香る中山間地域の創造」パートナーズ協定締結

● 土佐山へき地診療所に指定管理制度導入
高知大学が指定管理者に

● 土佐山公民館バリアフリー整備
エレベーターや多目的トイレの設置

● 平成21(2009)年度

● ゆず搾汁施設完成

● 土佐山コミュニティ計画完成

● 防災行政無線整備



生産者・企業・行政が協力し、地域資源「ゆず」の生産とブランド化に取り組むことを取り決めました。（写真は第3期協定締結の様子）



土佐山桑尾に、地元住民が待ち望んでいたゆず搾汁施設が完成。落成式典には多くの関係者が出席しました。この施設は、処理能力と衛生面で最新の設備が導入されており、1日に30トンものゆず果汁を搾ることができるため、生産能力が大幅に向上。安定した生産につながりました。

MAJOR EVENTS

合併後の主な出来事



土佐山地域の主な出来事

● 平成22(2010)年度

- 高知市が「土佐山百年構想」を提案
- 土佐山夢づくりの会発足
- 高知市に土佐山地域振興課設置

● 平成23(2011)年度

- 夢産地とさやま開発公社の教育部門として土佐山アカデミー設立

● 平成24(2012)年度

- 土佐山夢産地パーク交流館「かわせみ」開館
- 土佐山夢産地パーク事業「とさやま夢講座」開始
- デマンド型乗合タクシー「かわせみ号」実証事業
- 土佐山へき地診療所送迎バス新たに
- 高知市消防団土佐山分団屯所にシャッターアート制作
- 土佐山アカデミーが特定非営利活動法人として独立
- 中山間地域空き家情報バンク制度開始
- 土づくりセンター施設整備



H18年に閉館した土佐寒蘭センターを改修し、地域内外の人が交流・活動する新たな交流館が開館しました。



自宅などから路線バスの乗換場所まで乗り合わせで利用できるタクシーの実証運行がスタートしました。

MAJOR EVENTS

合併後の主な出来事



土佐山地域の主な出来事

● 平成25(2013)年度

- デマンド型乗合タクシー「かわせみ号」本格運用
- 旧青年研修所解体



地域唯一であり、地域住民にとって最も身近な医療機関である土佐山へき地診療所が新築・移転しました。現在も安定的な医療提供が行われています。

● 平成26(2014)年度

- 地域活性化住宅整備「土佐山桑尾経塚地域活性化住宅」1棟2戸完成
- 夢ファーム土佐山解散
- (協) 土佐山ファクトリー設立
- (一財) 夢産地とさやま開発公社 四方竹加工事業開始
- 土佐山学舎校舎完成



子育て世帯や産業担い手確保を目的とした住宅が整備されました。
「土佐山桑尾敷ケナロ地域活性化住宅」

● 平成27(2015)年度

- 土佐山学舎開校
- 土佐山へき地診療所移転
- 地域活性化住宅「土佐山高川地域活性化住宅」1棟2戸
「土佐山桑尾敷ケナロ地域活性化住宅」3棟6戸完成
- (一財) 夢産地とさやま開発公社 とさやまストア再開
- 高知東警察署土佐山駐在所移転
- 土佐山体育会が文部科学大臣表彰



駐在所老朽化のため新築移転の計画が進められ、3月、旧青年研修所跡地に木造2階建ての新しい駐在所が完成しました。

MAJOR EVENTS

合併後の主な出来事



土佐山地域の主な出来事

● 平成28(2016)年度

● 土佐山学舎「高知市立義務教育学校」となる

● (一財) 夢産地とさやま開発公社が
ひろめ市場に「イモバル TOSAYAMA男爵」オープン、
(※現店舗名は「とさやま」)

● 夢産地ファクトリー(菓子工房) 操業開始



「プラチナ大賞」
(一社) プラチナ構想ネットワーク
が、人口減少や高齢化など、先例のない課題解決を目指す全国各地の取組を
表彰するものです。

● 平成29(2017)年度

● 土佐山分団屯所の修繕・改修で地域防災力強化

● 土佐山百年構想「プラチナ大賞」優秀賞受賞



● 平成30(2018)年度

● 高知市工石山青少年の家リニューアルオープン

● デマンド型乗合タクシー事務所開設



● 令和 2 (2020)年度

● 土佐山学舎が
「第13回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣賞」受賞

耐震工事や施設内の改修で生まれ変わりました。より安全で快適な環境で、多くの青少年が自然に触れながら、豊かな心身を育む施設として利用されています。

MAJOR EVENTS

合併後の主な出来事



土佐山地域の主な出来事

令和 3 (2021) 年度

- 地域活性化住宅整備「土佐山平石地域活性化住宅」 3 棟 6 戸完成
- 高速・大容量の通信基盤整備として居住エリア全域に光ファイバーを整備
- 土佐山学舎が「ホストタウン功労者表彰」受賞

令和 4 (2022) 年度

- 土佐山学舎が
“子どもの主体性を育む先駆的な教育の実践”を
表彰する「博報賞」及び「文部科学大臣賞」受賞
- マンホールトイレ整備（土佐山学舎）



地域の頼れるお店「とさやまストア」が待望のリニューアルオープンしました。オープン記念にはたくさんの方が集まり、リニューアルをお祝いしました。

令和 5 (2023) 年度

- とさやまストアリニューアルオープン
- 土佐山学舎が文部科学省の
「リーディングDXスクール推進事業」
の指定を受ける
- オーベルジュ土佐山が
「第23回(2023年度)JIA25年賞」受賞



「25年以上の長きにわたり建築の存在価値を発揮し、美しく維持され、地域社会に貢献してきた建築」として日本建築家協会から表彰されました。地元産杉、土佐漆喰等を使用した木造建築です。

令和 6 (2024) 年度

- 市道過疎改良工事完了（西川、桑尾、中切）

MAJOR EVENTS

合併後の主な出来事



トピック紹介

土佐山百年構想の提案

土佐山地域は、明治時代から人口が激減し、このままでは数十年で人がいなくなるという危機に直面していました。同時に、高知市の主要な水源である鏡川の源流域として、土佐山の森林や田畑の荒廃は、高知市全体の水供給や自然環境、さらには一次産業にも深刻な影響を及ぼす恐れがあり、土佐山の人々の暮らしと自然を守ることは、高知市全体の重要な課題でした。

こうした背景から、高知市は平成23年3月、土佐山らしい特色を活かした「土佐山百年構想」を提案しました。

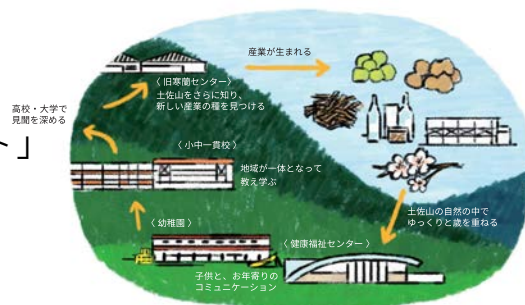
「土佐山百年構想」の中心にあるのは、旧土佐山村のDNAとも言える「社会学一体教育」の理念です。この構想では、子どもから大人、地域住民から県内外の交流市民まで、あらゆる人々が鏡川源流域の豊かな自然環境の中で共に学び、成長することを目指します。

柱となる3つのプロジェクト：

「土佐山/社会学一体・小中一貫教育プロジェクト」

「土佐山/まるごと有機プロジェクト」

「土佐山/交流・定住人口拡大プロジェクト」



交通の整備

合併以降、これまで継続して土佐山地域の道路を計画的に改良・整備し、道幅の確保、線形の改良、老朽化した部分の改修など、道路インフラを改善してきました。また、地域には路線バスに接続するデマンド型乗合タクシーも運行しています。これらの取組から地域交通の利便性が向上しました。

道路改良工事により生まれ変わりました（土佐山186号線）



土佐山学舎のご紹介



校長先生からメッセージ



本校は、「土佐山百年構想」におけるプロジェクトの一つに位置付けられ、平成27年4月に施設一体型小中一貫教育校土佐山学舎として開校しました。平成28年4月には義務教育学校土佐山学舎としてスタートし、令和7年4月に10年という節目の年を迎えました。開校当初は、全校児童生徒98名でスタートした本校も、現在135名が在籍しており、卒業生は令和7年3月で131名を数えます。

開校以来、学校教育目標を「ふるさとに誇りをもち、将来をたくましく、豊かに、勇気をもって生き抜く児童生徒の育成」として、土佐山学（生活科・総合的な学習の時間）や英語教育を核とした、特色ある取組を推進してまいりました。

英語教育においては、卒業時に英語検定2級取得を目指しており、これまでに多くの児童生徒が目標を達成しました。また、海外交流の場を積極的に取り入れたり、令和5年度からは、鳴門教育大学の留学生に毎月、来ていただき英語で授業交流を行ったりするなど、先駆的な取組を行っております。

土佐山学においては、令和4年に博報堂教育財団から、「博報賞」を、さらにその中でも最も優秀な団体があるときのみ与えられる「文部科学大臣賞」のダブル受賞をすることができました。この受賞を機に全国各地からの視察が絶えず、年間、約30団体の視察を受けております。また、昨年9月には、地域と学校が一体となって取り組んでいる本校の実践を、日本の代表として韓国で発表する機会にも恵まれ、韓国の学校関係者からも高い評価をいただきました。

こうした教育の営みが継続発展できましたのも、社会学一体の教育理念を大切にしている土佐山地域の皆様のおかげだと感謝をしています。いつも温かく子どもたちを見守り、惜しみない愛情を注ぎ、支えてくださる土佐山地域だからこそ、本校がここまで飛躍することができましたことに重ねてお礼申し上げます。

今後も、私たち土佐山学舎は、高知市の学校としての誇りをもち、児童生徒、教職員、PTA、地域が一つになって挑戦し続けてまいります。

結びになりますが、本日、高知市土佐山地域合併20周年記念式典が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。



高知市立義務教育学校土佐山学舎校長 福井 佳織

TRADITIONAL CULTURE

土佐山地域の伝統文化



梶谷の文殊様	土佐山梶谷	知恵を司る菩薩として有名な文殊様を祭った文殊堂で7月21日に行われる祭り。鐘を鳴らす者を囲み、呪文を唱えながら、けやきで作った数珠を回し、集まった子どもたちが知恵をさずかろうと菩薩像に祈る。
土佐山の地蔵祭	土佐山	旧暦6月20日に土佐山地区の宮の前にある地蔵の前で大数珠を輪になって廻し、虫を追ひ払い、豊作、健康を祈願して、夏越しを願う祭り。蝗送りともいう。
高川の早飯ぐい	土佐山高川	11月8日に行われる高川仁井田神社の秋祭りの一行事。早く残さず食べることが作法で、神事後、ミソミソミソユューユューの声飛び交うなか、慌ただしくご飯をかき込む。頭人が味噌や湯を持って走りながら給仕し、笑いのうちに膳が下がる。
弘瀬のおなばれ	土佐山弘瀬	11月8日に行われる弘瀬仁井田神社のおなばれ行事は、悪病退散の願いを込めた行事で約300年前からの伝承芸能。行事の中心はお旅所での碁盤振、獅子舞、挟箱、神相撲の奉納芸。
久万川のあみだまつり	土佐山東川	土佐山久万川地区で旧暦3月3日に五穀豊穡と部落一同の安全を祈願し読経と太鼓にあわせてお堂を一巡する。旧暦7月14日の夜には、奉納相撲や踊り等が開催される。
中切のお薬師まつり	土佐山中切	土佐山中切地区の薬師堂の、應叡18（1411）年の銘のある銅製鰐口にちなんだお祭り。旧暦7月7日に地区民が大きな数珠をお堂の周りで回し五穀豊穡と部落民一同の安全を祈願する。

梶谷の文殊様



高川の早飯ぐい



弘瀬のおなばれ



LOCAL EVENTS

土佐山地域の行事



2月	御霊神社 春の大祭 梅まつり（2～3月） 菖蒲本物を食する会	8月	土佐山夏祭り 菖蒲洞を楽しむ会
3月	土佐山戦没者慰霊祭	9月	彼岸花感謝祭 土佐山学舎文化祭 桑尾を偲ぶ会・元作まつり
4月	BAL土佐山感謝祭 とさやまの日	10月	道路愛護作業 御霊神社秋祭り 土佐山文化祭 土佐山フェスティBAL
5月	ほたる祭り（5～6月）	11月	神祭 土佐山ゆず祭 菖蒲芋煮会 狩猟解禁
6月	道路愛護作業 菖蒲まつり	12月	棚田キャンドル 門松づくり
7月	鮎漁解禁（ダム上流） 神祭 菖蒲せせらぎビアガーデン 虫送り 土佐山柚子交流会		

とさやまの日（4月29日）

明治22年4月29日に第1回村議会が開かれ、土佐山村が発足しました。毎年この日に、地域住民の交流会や特別講演などのイベントが行われています。

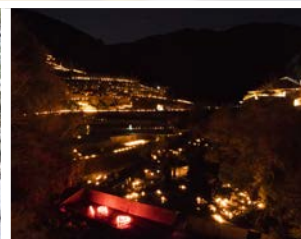


桑尾神祭



PHOTO COLLECTION

土佐山地域の風景



VARIOUS OTHER THINGS

土佐山地域のいろいろ



嫁石の梅は毎年2～3月にきれいな花を咲かせます



▲工石山

菖蒲洞

古生代に二畳紀白木谷層にできた鍾乳洞で、本洞・支洞・本洞下部の水路を合わせると全長約700m。洞口付近から弥生式土器片、35m上方の初平ヶ岩洞穴遺跡からは多くの土器や獣骨、貝などが出土



山嶽社

自由民権運動の影響を受けた和田波治・千秋父子が自宅を提供し寺子屋を作ったのが始まり。後に門下生の高橋簡吉が遺志を継ぎ、民権結社「山嶽社」を結成。現在の建物は平成3年に復元したもの

大滝山、ゴトゴト石、山姥の滝、弘瀬仁井田神社、高川仁井田神社など、たくさん「名所」があります



ショウガやゆず、四方竹などが盛んに栽培されていて、それらを使った商品も開発されています





美しい自然、歴史、文化、そして人と人との温かいつながり
ここで営まれる心豊かな暮らしは
土佐山を愛するすべての人々が力を合わせ
大切に守り、育み、実らせてきた、かけがえのない宝物です
私たちもこの美しい土佐山をさらに豊かにたくましく育てながら
未来へつないでいきましょう